

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-512-1636
090-9602-0700

有明海漁民ら百人以上

本日、よみがえれ！有明訴訟原告団らは農水省への抗議のため早朝から農水省前で座り込み行動を決行している。この抗議行動には、地元長崎県、佐賀県、福岡県から多数の漁民が参加している。また、有明海の再生を願う全国の市民も応援に駆けつけ、赤松農林水産大臣への直接面会を求めている。

抗議の座り込み決行中 農水前

漁民との面談拒否

新政権発足後、有明海の漁民らは、赤松農水大臣の「まずは地元で話し合いを」との方針に従い、長崎県知事らに対し協議を申し入れた。しかし、長崎県知事らはこの申出をことごとく無視し協議に応じようとしなない。そこで、漁民らは、今こそ赤松農水大臣がリーダーシップを発揮し国が率先して開門に向けた協議のテーブルにつき開門に向けた合意形成のイニシアチブをとることを求め大臣との面談を要請した。しかし、農水省は「昨日、漁民らに対し、政務三役らと漁民らとの直接面談を拒否する旨回答した。地元での協議も無視し、農水大臣も会わない等、このままでは民主党

がINDEX2009において「諫早湾干拓事業など環境負荷の大きい公共事業は、再評価による見直しや中止を徹底させます」「潮受堤防開門によって入植農業者の営農に塩害等の影響が生じないよう万全の対策を講じ、入植農業者の理解を得ます」と公約し政権交代を果たした真価が発揮されない。地元漁民たちには民主党に裏切られたとの思いが広がってきている。

大臣面談実現を

漁民らは面談を拒否されたもの納得できず、本日、赤松農水大臣との面談を求め農水省前での座り込みを行っている。大臣面談については、自公政権下の昨年7月、若林農相(当時)が漁業者らと面談し、それが開門談話につながった経緯があり、今回、赤松農相が面談拒否の回答をしたことについて、漁業者からは自公時代よりも後退したと民主党政権の姿勢を非難する声が出ている。

開門調査へ一万人署名 諫早市民の会が発足

【毎日新聞11月23日】国営諫早湾干拓事業(諫干)の開門調査に賛同する市民約100人が「開門調査を

求める諫早市民の会」をつくり、その発会式が22日、諫早市であった。式では、開門に向け諫早市民を対象に1万人の署名を集め、農水省、諫早市などに提出することを決めた。田添政継・諫早市議(社民党)らが会を立ち上げた。代表世話人には元諫早史談会長の山口八郎さん(83)ら5人が就任。山口さんは「開門調査すれば、必ず有明海は変わる」などとあいさつした。今後は、来年3月を目標に署名を集め、干拓地などの現地視察もする。田添市議は「諫早市民には開門賛成の人も多い。その声を拾い、農・漁業両立ができる諫早にしたい」と話した。

農相 長崎県との仲介 に前向き 佐賀県、歓迎 と懸念の声

【西日本新聞11月21日】国営諫早湾干拓事業の潮受け堤防の開門調査をめぐる、佐賀県と長崎県が対立している問題で20日、赤松広隆農相が地元調整の仲介に前向きな姿勢を見せたことに古川康(佐賀県)知事ら関係者は歓迎した。ただ、事態の打開は来年2月の長崎県知事選後との見通しを示した点については、開門調査の遅れを懸念する声も上がった(中略)ただ、赤松農相は記者会見の中で来年2月の長崎県知事選に金子原二郎知事が

不出馬を表明していることに触れ、「もうやめる人が(話し合いを)やる気にならない。長崎で新知事が誕生した後に新しい話し合いが始まると期待している」と長崎知事選後に仲介に乗り出す考えを示した。これに対し、県幹部の1人は「来年2月まで開門調査に向けた動きがストップするのは時間がもったいない」と不安視した。

早期開門に向け国は協議を 諫早訴訟原告団が要請書

【共同通信11月16日】諫早湾干拓潮受堤防開門を求める訴訟の原告漁業者と弁護団が16日、農林水産省を訪れ、早期開門に向けた原告側との協議を求める要請書を提出した。要請書は「国は政権交代後も、訴訟の中で開門拒否の姿勢を変えていない」として、福岡高裁と長崎地裁で係争中の裁判の中で、開門を協議するテーブルに着くことを求めている。早期開門を求める佐賀県と、反対する長崎県の話し合いを赤松広隆農相が呼び掛けていることについて「事業者である国が開門について裁判で争っている状況では、地元任せにしても決して協議は進まない」と批判。開門方法については「短期間の開門から始め、段階的に開門する方法なら、干拓地の農業や防災との両立は可能」と指摘した。